

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 2 原作シナリオ

山崎浩治

「片町夜曲(セレナーデ)」 #2 原作シナリオ

#1 夜の片町の風景

アヤカのモノローグ(以下、M)「あたし、美咲アヤカは大学の学費と生活費を稼ぐため、週3日はスナックで、週2日は居酒屋でバイトをやっています！」

#2 「居酒屋まわりみち」表

片町の路地裏で、暖簾を出している作務衣姿のアヤカ。

アヤカのM「今夜は居酒屋まわりみちでバイトの日」

#3 同・店内

コの字カウンターのなかで短髪、作務衣姿のマスター末吉(40代)が働いている。

アヤカのM「末吉さんは寡黙だけど、人間味のあるマスター。それはお盆のある夜のことでした」

末吉がカウンターの端にキュウリと割り箸で作られた馬の人形を置いた。

アヤカ「マスター、それ何ですか」

末吉「キュウリの馬……お盆だからね」

アヤカ「どうして馬なんですか」

カウンターで飲んでいた商店主のシゲさん(60代)が口を挟んできた。

シゲさん「大切な人が少しでも早く帰ってこられるようにさ。アヤカちゃん、お勘定！」

アヤカのM「シゲさんは仕事帰りに必ず寄ってくれる常連さん。お勘定は決まって……」

アヤカ「2000円になります！」

シゲさん「(支払いをして)また来るわ!(出て行く)」

アヤカ「毎日来店してくれるシゲさんって、いいお客さんですね、マスター」

末吉「1年に一度しか顔を見せないけど、10年以上通ってくれるお客さんも、いいお客さんだよ……たとえばほら、あの人」

カウンターの隅にひっそり座っている美人・睦美(20代)。

ロングドレスの似合うホステス風の女だ。

末吉「(睦美の前に器を置き)加賀レンコンの蓮蒸し。睦美ちゃん、好きだったろ」

アヤカ「(怪訝に)好き、だった……？」

透き通ったような笑顔を浮かべる睦美。

睦美「マスター、ありがとう……(立ち上がって、店を出て行こうとする)」

アヤカ「(慌てて)あ、ちょっとお客さん、お勘定！」

末吉「(アヤカを制して)睦美ちゃんはいいんだ……」

アヤカ「(腑に落ちず)……」

#4 片町の路地裏

#5 お客の波が引いた「居酒屋まわりみち」の店内

アヤカのM「そのお客さんがやってきたのは閉店間際でした」

スーツ姿の安川(30代)の前に瓶ビールを置く末吉マスター。

末吉「久しぶりだな、安川ちゃん」

安川「来たかい、睦美……」

末吉「ああ、さっきね」

安川「(ビールを呷って)どうしてオレの前に現れないんだ！」

末吉「(悲しそうに安川を見ている)……」

安川「(コップを握りしめ、泣いている)……睦美、なんでオレを置いて死んじゃうんだよ！ どうしてももう少し待ってくれなかったんだ！ そしたらオレ、女房と別れていたのに！」

アヤカ「(目を見開いて驚愕)……それじゃさっきの女の人……！」

#6 片町スクランブル交差点を腕を組んで渡ってくる安川と睦美(回想)

安川はスーツ姿、睦美はロングドレス姿。

アヤカのM「10年以上前、ホステスとお客だった二人は不倫の関係を続けていました」

#7 「居酒屋まわりみち」店内(回想)

カウンターで楽しそうに飲む安川と睦美。

アヤカのM「同伴やアフターでよくデートしたのが、まわりみちでした」

#8 車の運転席で眠っている睦美(回想)

アヤカのM「安川さんはいずれ奥さんと離婚すると約束していたそうだけど、睦美さんは待ちくたびれてしまったんです……」

助手席に練炭が置かれている。

#9 「居酒屋まわりみち」店内(現在)

安川「(涙を拭って立ち上がり)また来るよ、マスター……」

末吉「安川ちゃんも達者でな」

安川「(店を出て行こうとする)……」

アヤカ「(末吉に耳打ちし)マスター、お勘定は……」

末吉「安川ちゃんもいいんだ……」

アヤカ「でも……(出て行く安川の後ろ姿を見る)」

安川の足が一一透けている。

アヤカ「(驚愕して)……あの人も、ゆ、幽霊！(腰を抜かす)」

#10 森の中に佇む安川(回想)

アヤカのM「睦美さんが亡くなってすぐ、安川さんも後を追ったのでした……」

木から首つりのロープがぶら下がっている。

1 1 「居酒屋まわりみち」店内(現在・閉店後)

暖簾を片付けているアヤカ。

仕事を終えた末吉がカウンターでコップ酒を飲んでいる。

末吉「あの二人、お盆になると毎年、うちに来るんだよ。幽霊だから、おアシが要らないのさ」

アヤカ「マスター、水晶飾った方がいいですよ！ でないと、取り憑かれてしまいます！」

末吉「大切な常連さんを追い返せないよ」

アヤカ「……マスターって優しいんですね」

末吉「でも、ここだけの話……幽霊の出る店は流行るんだよ(ニヤリと笑う)」

1 2 「居酒屋まわりみち」店内(数日後の夜)

カウンターの端に、ナスと割り箸で作った牛の人形が飾られている。

アヤカのM「お盆の終わりには、故人がゆっくりあの世に帰れるように牛の人形……」

アヤカ「ねえマスター……あの二人はいつも別々に店にやってくるんですか」

末吉「ああ。あの世でもきっと結ばれなかったんだろうな」

アヤカ「(落胆して)……なんか悲しい」

末吉「おとこ川と呼ばれる犀川と、おんな川と呼ばれる浅野川。2つの川の流れは決して交わることがない。男と女も結局、すれ違い続けるのかもしれないなあ」

1 3 夜の犀川河川敷(犀川大橋が見える)

灯籠を持ってやってくる作務衣姿のアヤカ。

灯籠には相合い傘の左右に「安川さん」「睦美さん」と書かれている。

アヤカのM「この世で結ばれなかった二人があので結ばれますように」

灯籠を犀川に流すアヤカ。

河面を流れていく灯籠。

1 4 犀川大橋の上(アヤカのイメージ)

肩を並べて、流れていく灯籠を見つめている安川と睦美。

アヤカのM「来年のお盆には二人一緒にお店に来て下さいね！」

安川と睦美の幸せそうな笑顔。